

特定供給設備の位置及び構造等の明細書

1. 設置の理由

2. 特定供給設備の設置先名称及び所在地

設置先名称 _____

所在地 _____

3. 特定供給設備の技術上の基準に対応する事項

(液化石油ガス法施行規則第53条各号)

※号数の網掛け部分は、施行規則第18条の引用部分を示す。

号	対 応 事 項												
第1号	<p>貯蔵設備の基準</p> <p>イ 設備距離</p> <p>(1) 貯蔵能力 _____ kg × _____ (本) = _____ kg</p> <p>(2) 設備距離</p> <table border="1" style="margin-left: 40px; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">保安物件</th> <th style="width: 25%;">設備距離</th> <th style="width: 25%;">実測距離</th> <th style="width: 25%;">対象物件</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1種保安物件</td> <td>m (m)</td> <td>m</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第2種保安物件</td> <td>m (m)</td> <td>m</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">(注) 設備距離の () 内は障壁設置時の距離を示す。</p> <p>(3) 設備距離の不足に対する障壁の必要性 有 ・ 無</p> <p>ロ 障 壁</p> <p>(1) 障壁の構造</p> <p>① 材料 _____</p> <p>② 寸法 (高さ) _____ cm (厚さ) _____ cm</p> <p>③ 配筋 _____ 間隔 (縦) _____ cm (横) _____ cm</p> <p>(2) 扉の構造</p> <p>① 材料 _____</p> <p>② 寸法 (厚さ) _____ mm (高さ) _____ cm (幅) _____ cm</p> <p>③ 補強 等辺山形鋼 (枠) _____ mm × _____ mm (内) _____ mm × _____ mm 間隔 (縦) _____ cm, _____ cm (横) _____ cm</p> <p>ハ 火気取扱施設距離等</p> <p>(1) 火気取扱施設の種類 _____</p> <p>(2) 火気取扱施設距離 _____ m</p> <p>(3) 火気取扱施設距離が8 m以上ない場合の障壁・・・該当しない。</p> <p>① 材料 _____</p> <p>② 高さ _____ m</p> <p>③ 迂回水平距離 _____ m</p>	保安物件	設備距離	実測距離	対象物件	第1種保安物件	m (m)	m		第2種保安物件	m (m)	m	
保安物件	設備距離	実測距離	対象物件										
第1種保安物件	m (m)	m											
第2種保安物件	m (m)	m											

号	対 応 事 項
第 1 号	<p>ニ 滞留防止措置</p> <p>(1) 容器置場面積 $\underline{\hspace{2cm}} \text{ m}^2$</p> <p>(2) 法定換気口面積 $\underline{\hspace{2cm}} \text{ m}^2 \times 300 \text{ cm}^2/\text{m}^2 = \underline{\hspace{2cm}} \text{ cm}^2$ (A)</p> <p>(3) 換気口面積</p> <p>開口部面積 (縦) $\underline{\hspace{1cm}} \text{ cm} \times$ (横) $\underline{\hspace{1cm}} \text{ cm} \times \underline{\hspace{1cm}} \text{ ヶ所} = \underline{\hspace{2cm}} \text{ cm}^2$</p> <p>鉄筋断面積 $\underline{\hspace{1cm}} \text{ cm} \times \underline{\hspace{1cm}} \text{ cm} \times \underline{\hspace{1cm}} \text{ 本} \times \underline{\hspace{1cm}} \text{ ヶ所} = \underline{\hspace{2cm}} \text{ cm}^2$</p> <p>実際換気口面積 $\underline{\hspace{2cm}} - \underline{\hspace{2cm}} = \underline{\hspace{2cm}} \text{ cm}^2$ (B) (B) > (A)</p> <hr/> <p>ホ さく、へい等の設置……貯蔵設備の建屋と兼ねる。</p> <hr/> <p>へ 警戒標</p> <p>(1) 掲示位置 容器置場入口及び側面</p> <p>(2) 表示内容</p> <p>① L P G 特定供給設備</p> <p>② 燃 (赤色文字)</p> <p>③ 火気厳禁 (赤色文字)</p> <p>(3) (2)に掲げるもののほか、次の事項を表示した標識を掲げる。</p> <p>① 特定供給設備の管理者の住所、氏名</p> <p>② 電話番号 (昼間・夜間)</p> <hr/> <p>ト 消火器</p> <p>(1) 型式 $\underline{\hspace{2cm}}$</p> <p>(2) 個数 $\underline{\hspace{2cm}}$ 個</p> <p>(3) 設置場所 当該容器置場の入口外側の収納ボックス内に設置する。</p> <hr/> <p>チ 屋根材等</p> <p>屋根組及び屋根の材料 $\underline{\hspace{4cm}}$</p> <hr/> <p>リ 転落転倒防止措置</p> <p>(1) 容器置場は水平でかつ上から物が落ちる恐れがないようにする。</p> <p>(2) 転倒防止チェーンによる転倒防止措置を講ずる。</p> <hr/> <p>ヌ 腐食防止措置</p> <p>(1) 充てん容器は全面にわたって十分に防錆塗装がされた容器を使用する。</p> <p>(2) 容器置場は排水のよい構造とし容器の底部を乾きやすくする。</p>
第 2 号	貯槽の基準……貯槽を設置しない。
第 3 号	容器交換時の供給中断防止措置 自動切替式調整器を設置する。
第 4 号	第18条第 4 号から第 8 号まで、第10号及び第19号から第21号までの基準

号	対 応 事 項
第18条 第4号	<p>貯蔵設備、調整器等の選定</p> <p>一般消費者等の液化石油ガスの最大消費数量に適応する数量の液化石油ガスを供給しうるものを設置する。</p> <p>別紙－1に貯蔵設備、調整器及びガスメーターの選定根拠を記載</p>
第5号	<p>腐食、割れ等の欠陥</p> <p>バルブ、集合装置及び供給管は、使用上支障のある腐食、割れ等の欠陥がないものを使用する。</p>
第6号	<p>腐食防止措置</p> <p>バルブ、集合装置及び供給管には、腐食を防止する措置を講ずる。</p>
第7号	<p>使用材料</p> <p>バルブ、集合装置及び供給管の材料は、その使用条件等に照らし適切なものを使用する。</p> <p>別紙－2にバルブ、集合装置等の材料、耐圧性能、腐食防止措置を記載</p> <p>別紙－3にバルブ、集合装置等に関する添付書類を記載</p>
第8号	<p>集合装置及び供給管に関する基準</p> <p>イ 高圧部の耐圧試験 充てん容器と調整器の間に設置される管は、2.6MPa以上の耐圧試験に合格するものを使用する。</p> <p>ロ 低圧部の耐圧試験 調整器とガスメーターの間に設置される管は、0.8MPa以上の耐圧試験に合格するものを使用する。</p> <p>ハ 中圧部の耐圧試験 2段式減圧用1次側調整器と2次側調整器の間に設置される管は、0.8MPa以上の耐圧試験に合格するものを使用する。</p> <p>ニ 引張試験 充てん容器等と集合装置に係る集合管を接続する管は、接続状態で1kN以上の引張試験に合格するものを使用する。</p>
第10号	<p>漏えい試験</p> <p>バルブ、集合装置及び供給管は、漏えい試験に合格するものを使用する。</p>
第19号	<p>気化装置に関する基準……気化装置は設置しない。</p> <p>イ 腐食、割れ等の欠陥 使用上支障のある腐食、割れ等の欠陥がないものを使用する。</p> <p>ロ 耐圧試験 _____ MPa</p> <p>ハ 加熱方式 _____</p>

号	対 応 事 項
第18条 第19号	ニ 液流出防止方式 _____ ホ 温水部の凍結防止措置 _____ ※ 気化装置のメーカー、型式等 (1) メーカー _____ (2) 型式 _____ (3) 処理能力 _____ kg/h
第20号	調整器に関する基準 イ 腐食、割れ等の欠陥、液化石油ガスへの適合性 使用上支障のある腐食、割れ、ねじのゆるみ等の欠陥がなく、かつ、消費する液化石油ガスに適合したものを使用する。 ロ 耐圧試験、気密試験 次の耐圧試験、気密試験に合格するものを使用する。 (1) 2段式減圧用2次側のものを除く調整器 耐圧試験 2.6MPa以上 気密試験 1.56MPa以上 (2) 2段式減圧用2次側の調整器 耐圧試験 0.8MPa以上 気密試験 0.15MPa以上 ハ 調整圧力、閉そく圧力（2段式減圧用1次側のものを除く。） 次の調整圧力、閉そく圧力のものを使用する。 (1) 生活用の調整器 調整圧力 2.3kPa以上3.3kPa以下 閉そく圧力 3.5kPa以下 (2) 生活用以外の調整器 調整圧力、閉そく圧力は、使用する燃焼器に適合したものを使用する。 ※ 調整器の種類、メーカー、型式等 (1) 種類 _____ (2) メーカー _____ (3) 型式 _____ (4) 容量 _____
第21号	地下室等に係る供給管の緊急遮断装置……地下室等に供給しない。
第22号	ハ 対震自動ガス遮断器 調整器の1次側と2次側の間の中圧部分に2個設置する。

(注) 対震自動ガス遮断器の設置は、特定供給設備（貯蔵設備から調整器まで）の技術上の基準には規定されていないが、供給設備の技術上の基準が適用されるため、対象物件のガスメーターが大型ガスメーターで感震器が組込まれていない場合は、対震自動ガス遮断器を設置する必要がある。（施行規則第18条第22号ハ）

この場合、調整器の1次側と2次側の間の中圧部分に対震自動ガス遮断器を設置することが多いため記載した。

貯蔵設備、調整器及びガスメーターの選定根拠

1. 設計条件

- (1) 使用容器の種類
- (2) 液化石油ガスの規格
- (3) 最大消費数量 kg/h
- (4) ピーク時の気温 °C
- (5) 50kg容器 1 本当たりのガス発生能力 kg/h

2. 容器設置本数の計算

- (1) 必要本数 本
- (2) 設置本数 本
- (3) 貯蔵量 kg

3. 調整器容量の計算

4. ガスメーター容量の計算

バルブ、集合装置及び供給管の材料、耐圧性能及び腐食防止措置

名 称	材料及び規格	耐圧性能	腐食防止措置
集合装置			
高圧ホース			
根元バルブ			
ストレーナーバルブ			
高圧用バルブ			
1次用調整器			
2次用調整器			
中圧用バルブ			
低圧用バルブ			
供給管			

バルブ、集合装置等に関する添付書類

1. 集合装置	配置図
2. 集合装置・調整装置	詳細図
3. 集合装置の鋼管	強度計算書
4. 溶接式1/4オンボス	強度計算書 詳細図
5. ストレーナーバルブ	強度計算書 組立図
6. 根元バルブ (チェック弁付ストップ弁)	強度計算書 組立図
7. 高圧用バルブ (ネジ込式ストップ弁)	強度計算書 組立図
8. サイフォンパイプ	強度計算書 組立図
9. 高圧ホース	強度計算書 組立図
10. 自動切替調整器	強度計算書 組立図 流量性能曲線
11. 2次側調整器	強度計算書 組立図 流量性能曲線
12. 中圧用バルブ (ボールバルブ)	強度計算書 組立図
13. 低圧用バルブ (ネジ込式ユニオンボールバルブ)	強度計算書 組立図
14. 対震自動ガス遮断弁	強度計算書 組立図
15. 圧力計	仕様書

(注) 本書では、図面等の添付は省略する。